

巻頭のことば

藤宗和香先生は、2008年3月に最高検察庁検事を退官された後、2009年4月より立教大学大学院法務研究科に教授（実務家教員）として着任され、法科大学院の教育に携わってこられました。このたび、2014年3月末日をもって、定年によりご退職されることになりました。

藤宗先生は、東京大学法学部を卒業された後、1980年4月に検事として東京地検に配属され、その後は、静岡、横浜等の各地検、および、東京、仙台の各高検を経て、最高検検事としてご活躍されました。先生は、検事時代には、東海大学安楽死事件や潜水艦なだしお衝突事件などの多くの著名な事件に携わられました。しかし、先生ご自身は、交通事故や傷害致死事件などの日常的な無名の事件の中にこそ、多くの忘れられない事件があったようです。そして、まさにこのことに、被害者に対する理解と共感とを持って事件と向き合う先生の、検事としての真摯な姿勢がうかがわれます。

また、教育面においても、藤宗先生は、法務総合研究所および司法研修所の教官として法曹教育に携わってこられました。そして、本法務研究科に着任される以前にも、東北大学法科大学院および白鷗大学法科大学院に派遣され、法科大学院教育を实践されてきました。先生の検事としての実務経験に加え、このような教育面における経験が、本法務研究科の教育にもいかに発揮され、先生の厳しい中にも人間的な魅力にあふれた講義や演習は、多くの受講生の心を惹きつけました。本法務研究科を卒業後に、藤宗先生のような検事になりたいと考えて任官する者や、弁護士となって先生の下に集まる者も多く、先生の教育が後進の法曹養成に大きくご貢献されたことは、あらためて申し上げるまでもありません。

このたび、わたくしたちは、藤宗和香先生がご退職されるにあたり、先生の立教大学大学院法務研究科に対するこれまでの多大なるご貢献に感謝するとともに、先生の今後の変わらぬご健康とご活躍とを祈念して、『立教法務研究』

2 立教法務研究 第7号 (2014)

第7号を先生の退職記念号として編ませていただくことにいたしました。これからも変わらぬご指導をお願いし、謹んで本書を先生にご献呈申し上げます。

2014年3月

法務研究科委員長 野澤正充